

JENESYS2018 ASEAN 招へいプログラム第 14 陣の記録

若手メディア関係者交流

対象国：インドネシア、フィリピン

1. プログラム概要

対日理解促進交流プログラム「JENESYS2018」の一環として、インドネシアより若手メディア関係者(社会人)8名、フィリピンより若手メディア関係者(大学生・社会人)15名が2018年11月27日～12月3日の日程で来日し、「若手メディア関係者交流」をテーマとしたプログラムに参加しました。

一行は、同テーマの下、東京都内での日本理解講義の聴講と文化施設の視察後、国別グループに分かれ、インドネシアは宮城県、フィリピンは長野県を訪問しました。訪問地では、メディア関連機関へ訪問し、関係者との意見交換を行いました。また、各地域の名所の視察、宮城県では震災復興の取組みの現状、長野県では、自治体表敬、ホームステイを体験しました。一行は、様々な視察と日本人との交流を通して日本についての理解を深め、各々の関心事項や体験についてSNSを通じて对外発信を行いました。帰国前の報告会では、訪日経験を活かした帰国後のアクション・プラン(活動計画)について発表しました。

【参加国・人数】 2か国・23名(内訳)インドネシア8名、フィリピン15名

【訪問地】 東京都、宮城県(インドネシア)、長野県(フィリピン)

2. 日程

	インドネシア	フィリピン
11月27日(火)	来日、【オリエンテーション】	
11月28日(水)	【日本理解講義の聴講】 日本の都市交通について 講師：日本大学理工学部交通システム工学科 教授 福田 敦 氏 【視察・体験】 浅草寺、地下鉄乗車(大江戸線)、江戸東京博物館	
11月29日(木)	東京都より宮城県へ移動 【視察】 震災遺構 仙台市立荒浜小学校 【テーマ関連の視察】 河北新報社	東京都より長野県へ移動 【表敬訪問】 白馬村役場 【ホームステイ】 白馬村
11月30日(金)	【テーマ関連の視察】 KHB東日本放送、東北大学災害科学国際研究所	【ホームステイ】 【テーマ関連の視察】 大系タイムス株式会社
12月1日(土)	【世界遺産の視察】 中尊寺金色堂、日本三景松島 【文化体験】 茶道	【文化視察】 地獄谷野猿公苑、善光寺 【地域産業視察・体験】 信州フル

		ーツランド（りんご狩り）
12月2日（日）	【文化体験】こけし絵付け 【ワークショップ（報告会準備）】	【地域産業視察】大王わさび農場、株式会社石井味噌 【文化視察】松本城、 【ワークショップ（報告会準備）】 【地域住民・関係者との歓送会】
12月3日（月）	宮城県より東京都へ移動 【成果報告会】、帰国	長野県から東京都へ移動 【成果報告会】
12月4日（火）	-	帰国

3．プログラム記録写真

【インドネシア・フィリピン】(東京都)

	
11月28日【日本理解講義の聴講】	11月28日【文化体験】江戸東京博物館
	
	
12月3日【成果報告会】	

【インドネシア】(訪問地：宮城県)



11月29日【テーマ関連の視察】
震災遺構 仙台市立荒浜小学校



11月29日【テーマ関連の視察】
河北新報社



11月29日【テーマ関連の視察】
KHB 東日本放送



11月29日【テーマ関連の視察】
東北大学災害科学国際研究所



12月1日【文化視察】日本三景 松島



12月2日【文化体験】こけし絵付け

【フィリピン】(訪問地：長野県)



11月29日【表敬訪問】白馬村役場



11月30日【テーマ関連の視察】
大糸タイムス株式会社

	
11月30日【ホームステイ】	12月1日【地域産業視察・体験】 信州フルーツランド
	
12月1日【視察】地獄谷野猿公苑	12月1日【地域産業視察】 株式会社石井味噌

4．参加者の感想（抜粋）

インドネシア社会人

荒浜小学校への訪問が最も印象に残っているプログラムのひとつです。小学校の校舎に到着してすぐに何か違う雰囲気を感じました。そして私の地元であるロンボック島で、数ヶ月前に発生した地震のことを思い出しました。ここでマグニチュード9の地震と津波が発生したことを聞きました。この場所でそのような甚大な災害が発生したことを想像するだけで鳥肌が立ちました。荒浜小学校の校舎の中に入っていくと、津波が襲ってきたときに、まるで私がその場にいたのではないかと想像せざるを得ませんでした。ロンボックの地震はマグニチュード7でしたが、それでもその記憶は私の心の中に深く残っています。2011年3月11日で被災された人々に心に残る記憶がいったいどれほどのものなのか想像もできません。震災後の行政や地域の人々の防災への取り組みについての説明がとても興味深く、聞き入ってしまいました。ずっと立ちっぱなしでしたが、説明を聞いている時、疲れることはありませんでした。被災した人々が震災後の復興・復旧の取り組みにとっても前向きであることに感銘を受けました。その姿勢をインドネシアの人々もまねるべきではないかと個人的に思いました。特に私の地元であるロンボック島の被災者の方々も、悲しみに打ちひしがれてばかりいないで、立ち上がって、他の誰かからの助けを待つばかりでなく、自立して震災後の新しい生活を築いていかなければならないと感じました。震災後の取り組みとして我々が日本を手本とすることができると思ったのは、災害の経験を次の世代に語り継ぐことです。教育、震災の記憶を伝えることによって、より良い防災が可能になることと思います。インドネシア、特にロンボック島では、防災教育はまだごくわずかで、災害のニュースもすぐに忘れ去られてしまいま

す。JENESYS2018 のプログラムで得た経験で、私の視野が広がったと感じています。

インドネシア社会人

仙台の地元メディアが報道の業務だけではなく、防災に参画していることがとても印象に残りました。日本のメディア関係者から、メディアが防災に関して非常に重要な役割を持ち、大きな責任を負っているということを学びました。災害が発生した時に報道して、その後、忘れてしまってはいけないのです。インドネシアのメディアは、災害が発生時、報道を集中的に行い、その後は忘れてしまいがちです。日本のメディアは、ずっと先を見据えています。日本のメディアは、“いかに災害の話や経験を次の世代に語り継ぐのか”、“今後同じような災害が発生した時、いかに被災者の数を最小限にすることができるのか”ということも考えているのです。日本の国、日本の人々は、ひとつの経験を教訓としてより良いものにしていこうということ、よくわかっているのだろうと感じました。2011年の震災後、“Build back better(より良い復興)”の取組みが日本では実施されています。この言葉はインフラの復旧をするだけではなく、今後の災害への対応、備えをより良くできる街づくりを含んだ復興を目指すものだ理解しました。また、日本の鉄道建設についても印象に残っています。鉄道開発は、いかにして大量輸送手段の快適さに人々が簡単にアクセスできるようにするのかということだと思っています。日本ではその先を行っていると感じました。大量輸送機関の駅などで経済活動を促進し、収益が出せるようにするのかということも考えていることを学びました。

フィリピン社会人

情熱があるからこそ、熱心に仕事に取り組む。大系タイムスは、メディアに従事するものとしての自分の目的を思い出させてくれました。大事な事を伝えるということ、そして、大事な事というのは必ずしも政治的な事ではなく、どうにかして地域社会の絆を強くするような記事は、社会の流れを変え得るのです。それを教えてくれた大系タイムスに深く感謝しています。ホームステイを通じて、日本の一番素晴らしい宝は人々だと感じました。ホームステイが素晴らしい経験となったのは、ホストファミリーの素晴らしさのお陰です。心から迎えて下さり、日本文化の神髄である考え方や人生観を知ることができました。ホストファミリーの皆さんに感謝しています。一生忘れません。

フィリピン社会人

講義は的をしばってあり、どれも興味深く、多くを学びました。質問への回答はとても明解で、私の理解の助けとなりました。白馬村役場と職員の皆さんは、びっくりするほどあたたかく、私達を歓迎してくれました。自分たちが村の一員になったようにも、また、とても大切に扱われているようにも感じました。自分たちの滞在が意味のある、皆様にとって何かの役に立つと感じられました。また、日本人は真面目で気難しいと思っていたのですが、ホームステイをしてみたら、楽しくて、あたたかい、愛すべき人たちだと分かりました。私のホストファミリーとなったお父さんお母さんは本当にそんな方たちでした。

5. 受入れ側の感想

メディア関係者（KHB 東日本放送、宮城県）

みなさん熱心にメモを取られたり、活発な質問をいただき、ありがたく思います。『5

年頃のきょう」の上映では涙を流している方もいて、制作側も感銘を受けました。

ホストファミリー（長野県）

今回フィリピンから初めて来日した皆さんを受入れ、明るく元気な人達で過ごすことが出来ました。私達が毎日あたり前のように見ている自然などの風景が、彼達には新鮮に見えているようで、改めて自分たちの白馬村に感謝する気持ちになりました、彼らに感謝します。

ホストファミリー（長野県）

フィリピンの皆さんが、日本の文化、食、言葉を全力で楽しみながら吸収しようとしてくれていて、私たちも楽しめました。私たちが英語をそれ程話せないで、ゆっくり分かりやすく話してくれたり、フィリピンの事を色々教えてくれました。

6. 参加者の対外発信

 Lihat insight Promosikan 24 suka agrasiregar Day 3 Still Program Jenesys 2018 Batch Media Indonesia Ke 3 -Visit to Sd Arahama Salah Satu Distrik Yg terkena Bencana Tsunami pada tanggal 11 Maret 2011 yang Mencapai Lantai 2 Sd ini. Sebanyak 320 Siswa/ Siswi, guru, Penduduk Sekitar Mengungsi Ke Sd Ini Diselamatkan... #jice	 Disukai oleh amandariesta dan 94 lainnya sandifirdaus11 Berkunjung ke media lokal di kota #sendai di prefektur #miyagi Berbagi pengalaman bagaimana media lokal bisa mandiri dan bertahan selama 43 tahun Foto kedua diambil saat kunjungan ke surat kabar lokal yg komitmen untuk memberitakan bencana gempa dan tsunami di jepang pada 2011 lalu
【インドネシア社会人】2011年3月11日に発生した震災で被災した荒浜小学校訪問。津波は小学校の2階まで押し寄せたが、避難した小学生、教職員、地域住民ら320名は救助されました。	【インドネシア社会人】宮城県仙台市のローカル新聞社の河北新報、ローカルテレビ局の東日本放送を訪問。2011年に発生した震災の報道に力を入れている地元メディアで経験を共有してもらいました。
	
【フィリピン社会人】長野県安曇野市の大王ワサビ園についての発信：長野県にあるこのワサビ園は15haもあり、30～40万ものワサビが植えられています。夏でも冬でも安定して13～15℃の水温はワサビ栽培に最適。一番長い畑は1キロにも及びます。	【フィリピン社会人】長野県についての発信：今日の体験は、自然や動物にこれだけの敬意を払い、大事にしている土地での暮らしを知るものでした。地獄谷野猿公苑で野生のニホンザルを観察し、長野の信州フルーツランドでは新鮮なり

2年もの手間暇をかけて収穫。周辺は古き良き日本の面影を残し、映画やその他の撮影には絵になる場所です。	んごの収穫体験をしました。
--	---------------

7. 報告会での帰国後のアクション・プラン発表

As we are the media people, the most possible activity we can do in the near future is sharing lesson learned from Japan to as many people as possible through our stories in with media where we work as medium

Project Title:
**REMEMBER PAST,
BETTER TOMORROW**

- ▶ Reporting and publishing story about Japan's public transportation system (railway). Defining the key success factor of Japan's railway development and giving recommendation for Indonesia's railway development in the story.
- ▶ Reporting and publishing story about Japan's Disaster Risk Management (Disaster recovery and disaster mitigation) and what lesson learned from it.

COMMUNICATIONS OBJECTIVE

- CREATE A CONSISTENT ONLINE PLATFORM FOR JENESYS IN THE PHILIPPINES
- COMMUNICATE WITH ALUMNI MEMBERS FOR CONTENT AND PROMOTION
- COLLABORATE WITH NYC, JICE AND ATTACHED AGENCIES TO BRING JICE PROGRAMS TO MORE PEOPLE IN THE COUNTRY

JANUARY 2019						
Sunday	Monday	Tuesday	Wednesday	Thursday	Friday	Saturday
		Alumni Quote Card on the JENESYS Experience		History on the Philippine-Japan Friendship		30s Video on the JENESYS 2018 Experience
		Alumni Quote Card on the JENESYS Experience		JENESYS ALUMNI Feature		30s Video on the JENESYS 2018 Experience: <i>Trad and Trend: The Japanese Culture</i>
		Alumni Quote Card on the JENESYS Experience		About JICE		30s Video on the JENESYS 2018 Experience: <i>Learnings at Onjo Times</i>
		Alumni Quote Card on the JENESYS		JENESYS ALUMNI Feature		30s Video on the JENESYS 2018 Experience:

【インドネシア】私たち参加者は、メディア関係者ですから、各々が勤務しているメディア媒体により、記事の執筆、番組作成等を行い、訪日経験を活用し、日本での学びを多くの人たちに共有します。

タイトルは「過去を記憶し、より良い明日」とします。内容は、

1. 日本の公共交通（鉄道）について、日本の鉄道事業がなぜうまくいっているのか報道をし、インドネシアの鉄道事業の発展への提案をします。
2. 日本の防災（復興と減災）の取り組みを報道します。

【フィリピン】タイトルを「JENESYS フィリピン、コミュニケーションプラン」とし、日本文化をフィリピンに広め伝えるために JENESYS 参加者同士のネットワークを活用して、発信の基盤作ります。具体的には、

1. JENESYS を活用し、一貫したオンラインの発信プラットフォームを立ち上げます。
2. 過去の JENESYS 参加者と連携し、コンテンツを作成し、推進します。
3. フィリピン国家青少年委員会（NYC）や日本国際協力センター（JICE）等、JENESYS の関連機関と連携・協力し、フィリピン国内での JENESYS の正しい理解と交流の促進に貢献します。